



有中だより

75名の卒業生に幸あれ！

本年度も残りわずかとなりました。半数の3年生は既に第一志望の高校への進学が内定していますが、残りの半数は先週公立高校の後期試験を終え、17日（水）の合格発表を待つばかりとなりました。全員の合格を祈っています。なお、卒業生の進学希望校は以下に記載しています。

さて、明日は本校の卒業式です。卒業式は、中学校の教育課程を全て修了したことを認定する式典ですが、「卒業証書」を授与することから「卒業証書授与式」とも呼ばれています。また、卒業は別れするときでもありますが、それぞれが新たな旅立ちの日を迎えるおめでたい日でもあります。したがって、昔から1年の中で最も重要な学校行事が「卒業式」であると言われてきました。75名の3年生の卒業を心から祝福し、「有家中学校の生徒で良かった」と言われるようお願いに残る卒業式にしたいと思っています。

また、1・2年生には24日（水）に「修了証書」を授与する予定です。修了証書とは、中学校第1学年及び第2学年の全教育課程を修了したことを証明するもので、上の学年に進級できることを意味しています。通知表の裏面に記載していますのでご確認ください。

学校	学科 【コース】	募集定員 (人)	前期選抜		後期選抜		本校希望者数
			募集定員 (人)	志願者 (人)	募集定員 (人)	志願者 (人)	
島原	普通	200	50	118	150	99	12
	理数	40	10	24	30	19	
口加	普通 【普通】	54	10	37	44	41	12
	普通 【グローバル】	40	8	20	32	22	
	福祉	26	13	11	15	0	
島原 農業	3学科	各40 計120	各20 計60	87	各20 計60	33	10
島原 工業	3学科	各40 計120	各20 計60	116	各20 計60	58	11
島原 商業	3学科	各40 計120	各20 計60	97	各20 計40	39	3
島原 翔南	総合	80	40	45	41	8	13
その他の高等学校							14

～高校生への支援制度について～

高校生に対して、国及び県が行っている返済不要の支援制度があります。3年生の保護者へは既に詳しいパンフレットを配布していますが、1・2年生の保護者の方も参考にしてください。

① 授業料の支援（高等学校等就学給付金）

◆ 年収約910万円未満の世帯が対象

【公立の場合】授業料の負担がなくなります。（毎月 9,900 円×12か月）

【私立の場合】年収約590万円未満の場合（毎月 33,000 円×12か月）

年収約910万円未満の場合（毎月 9,900 円×12か月）

② 授業料以外の教育費に係る支援（高校生等就学給付金）

◆ 生活保護世帯、年収約270万円未満（住民税所得割額非課税）の世帯が対象

○ 世帯の状況等に応じて、32,300 円～129,700 円の給付

※ 年収はあくまで目安です。認定にあたっては、保護者全員分の税額で判断されます。

～南島原市奨学生募集～

4月1日～5月3日が新規奨学生の受付期間となっていますので、希望される方は、南島原市教育委員会へ申請されてください。

◆ 貸付金額（高校） 月 30,000 円

※ 卒業後、市内に住んで働く場合は償還金の補助金制度もあります。

～部活動の活動制限～

2月27日に長崎県の新型コロナウイルス感染症段階ステージが「ステージ1」に引き下げられたことを踏まえ、対応が以下のとおり変更になりました。

○ 他校、他チームとの交流（練習試合等）は、県内のみとする。

<校長室の窓から>

よく「甘やかすと子どもはダメになる」という話を聞きます。また、「子どもは可愛がらなければならない」という話も聞きます。では、「甘やかす」と「可愛がる」はどう違うのでしょうか。

「甘やかす」とは、子どもの言いなりになってしまうことだと思います。小さい時に、ほしい物を買って貰えず店に寝転んで泣いている子どもをなだめるために物を買ってやると、ほしい物は何でも手に入るのだと勘違いしてしまいます。一から十まで全部してやってしまうと、全てしてもらうことが当たり前になり、自分のことは何もできない子どもになります。そして、中学生の頃は親と子どもの関係が逆転してしまい、子どもが親をコントロールすることさえあります。

してやることだけが親の務めではありません。大人になったら我慢することや頑張らなければならないことがたくさんあります。子どもは自分の力で解決できる力を持っていますから、できないことに対してアドバイスしてあげて、親元から離れた時に一人でも頑張って生きていける子どもを育てるのが親の務めだと思います。甘やかしてしまうことと可愛がることの違いはそこにあると思います。

普段から「この子がいてくれてうれしいんだ」という愛情をたっぷり注いで、将来一人前の大人として自立できるよう、可愛がって育てていきたいものです。中学生・高校生の時期はその最後の機会だと思います。